

プログラムの概要

国際社会における多様な文化の様相を理解し、異なる文化間の相互理解と交流に貢献する人材の育成をめざし、人文諸学の基礎理論と比較研究の方法を学ぶ。さらに、それぞれの文化は社会構造と密接に関連していることから社会科学も履修対象とし、学際的・総合的なアプローチの方法を学べるようカリキュラムを編成している。

修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

所定の単位を修め、卒業研究において以下に掲げる学科の到達目標を達成したと評価された者に卒業を認定する。

- 知識・理解：世界の多様な文化のありようを分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけ、さらに自ら選択した専門的テーマに関して、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。
- 思考・判断：異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。
- 技能・表現：講義・講演の聴講や専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。また、その内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。
- 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。

履修条件 (アドミッション・ポリシー)

- ・世界の文化に興味を持ち、多様な文化の共生を望んでいる人
- ・様々な人々の存在に目を向け、共に学びあいながら、共に生きていく社会について考えたいと思っている人
- ・多様な外国語や情報発信のスキルを学び、世界の人々とコミュニケーションをとりたいと思っている人
- ・問題探究心・学修意欲に優れ、様々な事象について論理的に考え、思考と感性を表現することに適性を持っている人

学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

基盤教育科目を重視しつつ、1、2年次で学部・学科の基礎科目を集中的に履修することにより、基礎的かつ総合的な学力を涵養する。そのうえで、学生が自らの興味・関心にしがたって専門分野を選択し、専門外国語科目と学科選択科目、さらに3年次の演習・実験・実習科目の履修をへて、4年次での卒業研究へと、段階を追って専門的かつ実践的な学修を深めていけるよう、以下のような方針でカリキュラムを編成している。

1. 学部基礎科目 (1年次)：世界各地の社会・文化事象を、国家や国際機構、市民社会、そして人と人とのコミュニケーションという多層的な観点から考察するための総合的な理解力、基礎学力、情報処理能力を養う。
2. 学科基礎科目 (1, 2年次)：国境を超えた文化の諸問題を、言語学、比較文化、芸術文化、文化人類学の四分野から考察する学力を養う。
3. 専門外国語 (2, 3年次)：学術的かつ実用的な英語学修に加えて、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、タイ語、朝鮮語の6つの外国語を学修する機会を提供し、世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養う。
4. 学科選択科目 (2, 3年次)：世界諸地域の文化および文化交流や、思想、歴史、言語、文学、心理、習俗などの個別分野の事象をより深く学修しながら、専門的な知識と多様な文化事象への理解力、分析力を養う。
5. 演習・実験・実習 (3年次)：自らの興味・関心にしがたって専門分野の演習・実験・実習を3年次から選択し、その分野における専門性を深めるとともに、資料や専門文献の収集・読解・分析、作品の鑑賞、主体的・批判的かつ論理的な思考や議論ができる力を養う。
6. 卒業研究 (4年次)：研究課題の設定から調査、分析、考察、結論へとという研究過程を自ら実践し、その結果を論文にまとめる作業を通じて、主体的に大学での学修の集大成をはかる。

国際文化学科 カリキュラムツリー

